

【8世紀末（桓武天皇の時代）～10世紀なかごろ（摂関政治の確立）の歴史概観】

- ※ 唐はしだいにその勢力を弱め、10世紀初めにはついに滅亡した。奈良時代にはほぼ20年おきに派遣されていた遣唐使も、平安時代に入ると遣使の間隔が広がり、894年には派遣が中止され、以後は行われなかった。
- ※ 8世紀末に即位した桓武天皇は、長岡京、さらに平安京への遷都を行うとともに、律令政治の「立て直し」に努めた。9世紀前半の嵯峨天皇も律令政治の改革に努めた。しかし9世紀なかごろ以降は、偽籍が横行する一方で、しだいに戸籍・計帳作成が行われなくなり、10世紀初めには班田収授も行われなくなった。政府は律令税制に代わる新たな税制を導入せざるを得なくなり、それにともなって政治のあり方も変化していくことになった。
- ※ 中央政治においては9世紀以降、藤原氏（藤原北家）が、天皇家と外戚関係を結んで政治の実権を握るようになり、10世紀なかごろ以降は、いわゆる摂関政治の時代となった。
- ※ 地方においては、10世紀以降武士の台頭が始まり、戦乱が各地で起こるようになった。

時代	主な天皇	藤原北家	西暦	主なできごと	中国王朝
平安	桓武	冬嗣	794年	平安京へ遷都	唐
	嵯峨		810年	平城太上天皇の乱（葉子の変）。	
	清和	良房	842年	承和の変	
	・	基経	866年	応天門の変 藤原良房、正式に摂政となる	
	・			藤原基経、関白となる	五代十国
	醍醐	・	894年	遣唐使の派遣中止	
	・	・	10C初	醍醐天皇、延喜の治を行う	宋
	・	実頼	10C中	承平・天慶の乱（平将門、藤原純友の乱）	
	村上天皇		10C中	村上天皇、天曆の治を行う	
	・		969年	安和の変	

第2章 律令国家の形成 5. 平安王朝の形成

(1) 平安遷都と蝦夷との戦い（軍事と造作） … 桓武天皇の時代の政治改革

- 遷都を繰り返す（造作） → 新詳 P60、P85 別紙プリント *古代の宮都の位置は、地図上で確認*
- ・ 784年平城京から[長岡京]へ遷都 → 794年さらに[平安京]へ遷都
 - ・ 桓武天皇はなぜ遷都を行ったのか? … 中国の易姓革命思想の影響 *授業で説明はす*
- 蝦夷の征討（軍事） → P75、別紙プリント *宮城県栗原市が本拠地*
- ・ (8世紀なかごろ～ 律令政府からの圧力が強まり、蝦夷は反発を強めていた)
 - ・ (780年[伊治咎麻呂]の乱起こる … 蝦夷たちによって多賀城が襲撃された)
 - ・ 8世紀末～9世紀初め 桓武は[坂上田村麻呂]を征夷大將軍に任命して派遣
 - 蝦夷の族長「阿弓流為（アテルイ）」を滅ぼす
 - 802年、北上川中流域に[胆沢城]を築き、[鎮守府]を多賀城から移す
 - さらに北方に[志波城]などを築く *↑ 軍事の拠点となる役所*
- 桓武天皇の時代（桓武朝）その他の政策 *入試では頻出、要check*
- ・ 「軍事」と「造作」の中止 … 「徳政相論」([藤原緒嗣]) → 教 P61 注3
 - ・ [勘解由使]を新設 … 国司の交代時に[勘解由使]の受け渡しを監督 *地図上で位置確認*
 - ・ 戦争が続く東北などを除き[軍団]を廃止 → [健児]の制を新設
 - ・ 雑徭を半減（年間60日→30日）、班田収授改革（6年一班→12年一班）

律令制の中の
軍事組織 -1-

郡司の子弟などを
兵力として利用。

(2) 嵯峨天皇の時代の政治改革

- [蔵人所] を設置 ← 810 年 [平城太上天皇の変 (葉子の变)] への対応として
- 平安京の治安維持のため [検非違使] を設置 ちなみに律令制定以後に新設された官職を [令外官] という ex. 征夷大將軍、勘解由使、蔵人頭、検非違使
- 社会状況の変化に対応するために政府が出した法令をまとめ、『弘仁格式』を編纂
ちなみに律令の規定を補足修正するために政府が出した法令を [格] といい、律令を施行するための細かな規則を [式] という
- 嵯峨天皇の時代の後、9 世紀後半には『貞観格式』が編纂され、10 世紀初頭には『延喜格式』が編纂された

…『弘仁格式』『貞観格式』『延喜格式』を合わせて [三代格式] と呼ぶ

(3) 地方と貴族社会の変貌 (9 世紀の社会)

- [令] の解釈を政府が公式に示した『令義解』を編纂 cf. 『令集解』
- [公營田] (: 大宰府管内)・[官田] (: 畿内地方) による役所の税収入確保
[勅旨田] (: 天皇がもつ私有地) の設置

(4) 弘仁・貞観文化 … 9 世紀ごろの文化

【文化の特徴】

- ※ 中国の [末唐] 文化の強い影響を受ける 特に当時流行の、密教の強い影響を受けた
- ※ 貴族社会において、中国の漢文学が重要視されるようになった cf. [文章経国] 思想

…中国風の文化を取り入れることを通じて、中国の皇帝のシステムを導入し、天皇権威強化を図る

- 「密教」とは? (cf. [顕教] = 学問中心の仏教) → 新詳 P87

・加持祈禱を行い、病気の平癒などといった現世利益を願う仏教

- 最澄と空海 … 804 年の遣唐使に従って同時に渡唐した、ライバル同士 → 新詳 P87

※ [最澄] … 天台宗 (= 顕教の一つ) を開く 主著: [顕戒論]

・平安京の北東、比叡山に [延暦寺] を建立

・[桓武天皇] の帰依を受け、比叡山に戒壇の設立を目指す

最澄の死後、弟子の [円仁]・[円珍] によって天台宗は密教化 (= [台密])

※ [空海] … 真言宗 (= 密教系の宗派) を開く 主著: [三教指帰]

唐から密教を導入 [嵯峨天皇] の帰依を受ける

・[高野山] (和歌山県) に金剛峰寺を建立 一方 [嵯峨天皇] から、平安京内の [東寺] を与えられ、[教王護国寺] と改称して布教の根拠地とした

- [神仙習合] 思想が広まる … 仏と神を同一のものとする cf. 薬師寺僧形八幡神像

- 山岳信仰と仏教が結びつく cf. [修験道] cf. 寺院が山中に建立される

- 寺院の伽藍配置が規則性を失う (伽藍配置の変遷: 塔が寺院の中心から外へ → 新詳 P52)

※ 建築 … [室生寺金堂]、[室生寺五重塔] が代表例 → 新詳 P87

※ 仏像・彫刻 キーワード: [一木造]、[翻波式] → 新詳 P88

・[観心寺如意輪観音像] (残念ながら秘仏で、年に一度しか拝観できません)

・教王護国寺 (東寺) 講堂不動明王像 この写真では仏さまがかわいそう 実物は迫力

・神護寺薬師如来像

・室生寺弥勒堂釈迦如来像 この仏像も、写真より実物の方がはるかに迫力があって良い

※ 絵画

・密教の世界観を表した [曼荼羅] が盛んに描かれた

※ 書道

※ 唐風の書体が流行 [嵯峨天皇]・[空海]・[橘逸勢] = [三筆]

《 桓武天皇による遷都 》

※ 桓武天皇による遷都事業

8世紀末、桓武天皇が造営した都。



(紫香樂宮)

(恭仁京)

・8世紀なかごろ、
聖武天皇が
造営した都

[奈良時代～平安時代初め (9世紀) の宮・都]

※ 桓武天皇はなぜ長岡京へ、そして平安京へ遷都したのか？

理由1：平城京にあった大寺院の勢力が、政治に介入することを嫌った

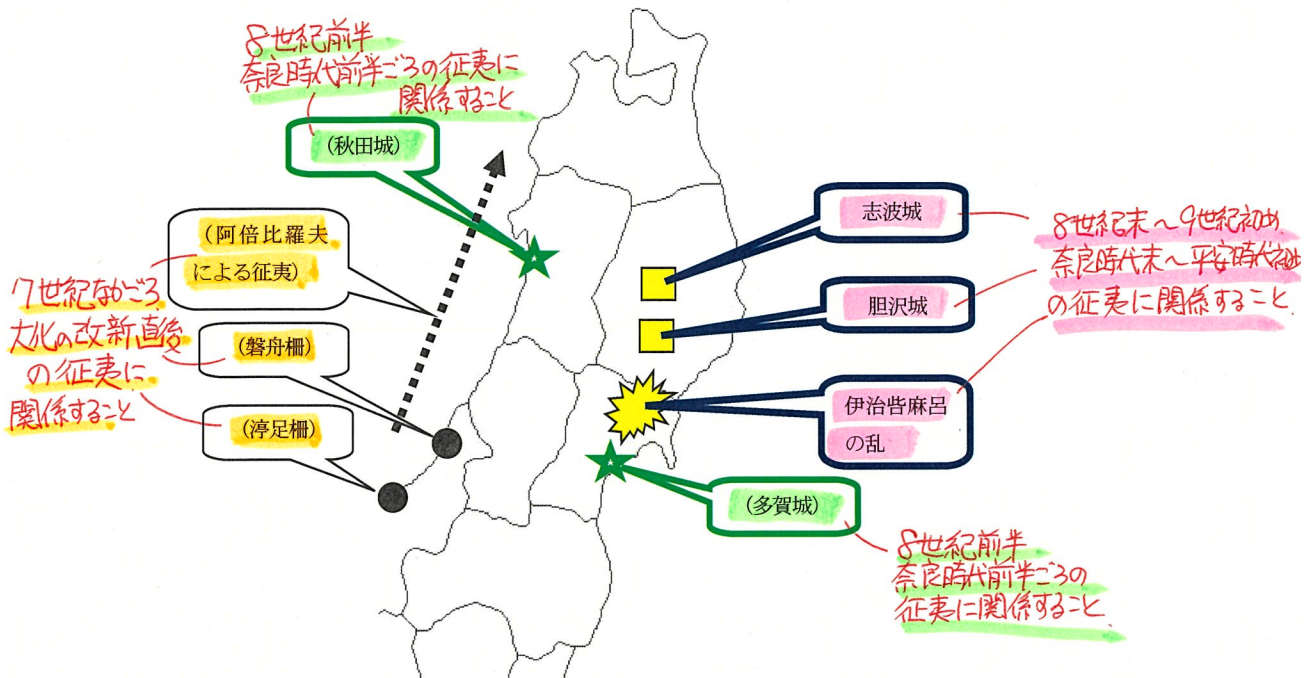
理由2：中国における「易姓革命」（えきせいかくめい）思想の影響を受けた

・易姓革命思想とは？ ……中国で時々起こる王朝交替の理由を解釈する

プリントでは説明しにくいです…
授業が再開したら説明します。

- ・桓武天皇は、奈良時代後半に天武天皇の子孫がとだえ、天智天皇の子孫である〔**光仁天皇**〕や、その子である自分が即位したことを、王朝交替であると解釈した。

《 桓武天皇による蝦夷の征討（征夷） 》



① 大化の改新・乙巳の変の直後（7世紀なかごろ）

淳足（ぬたり）柵 ・ 磐舟（いわふね）柵 を設置
[阿倍比羅夫] による征夷 … 日本海沿岸を船で北上

② 奈良時代前半（8世紀前半）

[秋田城] ・ [多賀城] を設置
出羽国を設置

③ 奈良時代後半（8世紀後半）～平安時代初め（桓武天皇の時期 9世紀初め）

（末）
〈奈良時代後半〉（末）

[伊治皆麻呂] の乱（780年） → 律令政府と蝦夷が全面戦争に突入 →

〈桓武天皇の時代〉

- [坂上田村麻呂] の征夷 … 太平洋側内陸を北上、[アテルイ] を逮捕 →
- 北上川中流域に拠点として [胆沢城] を築城し、多賀城から [鎮守府] を移す
さらに北方に [志波城] を築城

岩手県奥州市

軍事機関

第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治

(1) 藤原北家の発展

※ 9世紀前半ごろから、[藤原北家] (藤原房前の子孫) 一族が政治権力を伸ばす

※ 藤原北家の、勢力拡大の手法

・他の貴族を、陰謀事件によって追い落とす

ex. 842年 [承和の変] 866年 [応天門の変] 969年 [安和の変]

・天皇と [外戚] 関係を結ぶ

外戚=母方の親戚 娘を天皇の妃にして、生まれた子を天皇に

→ [摂政] [関白] といった高官に就く (安和の変以降は、摂政関白は常置状態に)

※ 摂政・関白が任命されず、天皇親政が行われた時期もあった

ex. [延喜の治] (by [] 天皇) : 10世紀初め

[天曆の治] (by [] 天皇) : 10世紀なかごろ

藤原北家の発展について

【藤原北家勢力拡大の過程とおもなできごと (9世紀~11世紀初め)】

西暦	主な天皇	関連する北家の人物	おもなできごと	備考
810	嵯峨	[藤原冬嗣] (子)	[平城太上天皇 の変(兼子の変)]	嵯峨天皇と平城上皇・藤原薬子が対立、戦争へ [蔵人所] が設置され、藤原冬嗣が初代蔵 人頭に任命される 藤原北家勢力拡大のきっかけ
842	・ ・ 清和	[藤原良房] ↓ ↓ ↓ ↓ (養子) ↓	[承和の変]	天皇位をめぐる貴族間の争いから発生 [藤原良房] の陰謀により、ライバルの [橘逸勢] や [伴健岑] らが追放さ れ、良房は権力を握っていく
866	・ ・	↓ ↓ ↓ ↓ (養子) ↓	[応天門の変]	[藤原良房] の陰謀により? 応天門放火の容 疑をかけられ [伴善男] が追放された。 これと前後して良房は [摂政] に任命
887	宇多	[藤原基経] (子)	[阿衡の紛議]	[藤原基経] が [関白] に任命され たが、任命書に「阿衡」とあってヘソを曲げた
10 世紀 初め	[醍醐]	藤原時平 (子)	[延喜の治]	摂政関白は置かれず、醍醐天皇が親政を行った ○最後の六国史「[]」編纂 ○最後の格式「[]」編纂 ○最後の班田收授 ○最初の荘園整理令 [延喜の荘園整理令] ○最初の勅撰和歌集「[]」編纂 ※901年 [] が陰謀により追放
10 世 紀 な かば	[村上]	(子)	[天曆の治]	摂政関白は置かれず、村上天皇が親政を行った ○最後の本朝十二銭 [] 铸造
969	・ ・ ・	[藤原実頼]	[安和の変]	藤原実頼の陰謀により、[源高明] を追放。
10 世紀 末 ~	・ ・ ・	藤原道長		藤原北家の「本家」= [摂関家] が政治の実権を握る これ以降、摂関家内部での主導権争い激しくなった ex. 花山院の出家 中宮定子と中宮彰子の「争い」 →藤原道長が権力を掌握、摂関政治が全盛に

第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治

(1) 藤原北家の発展

※ 9世紀前半ごろから、[藤原北家] (藤原房前の子孫) 一族が政治権力を伸ばす

※ 藤原北家の、勢力拡大の手法

・ 他の貴族を、陰謀事件によって追い落とす

ex. 842年 [] 866年 [] 969年 []

・ 天皇と [] 関係をつづ 外戚=母方の親戚 娘を天皇の妃にして、生まれた子を天皇に
→ [摂政] [関白] といった高官に就く (安和の変以降は、摂政関白は常置状態に)

※ 摂政・関白が任命されず、天皇親政が行われた時期もあった

ex. [延喜の治] (by [醍醐天皇]) : 10世紀初め

[天曆の治] (by [村上天皇]) : 10世紀なかごろ

【藤原北家勢力拡大の過程とおもなできごと (9世紀～11世紀初め)】

西暦	主な天皇	関連する北家の人物	おもなできごと	備考
810	嵯峨	[藤原冬嗣]	[平城太上天皇の変]	嵯峨天皇と平城上皇・藤原薬子が対立、戦争へ [蔵人所] が設置され、藤原冬嗣が初代蔵人頭に任命される 藤原北家勢力拡大のきっかけ
842	・ ・ 清和	[藤原良房] ↓ ↓ ↓ ↓	[承和の変]	天皇位をめぐる貴族間の争いから発生 [藤原良房] の陰謀により、ライバルの [橘逸勢] や [伴健岑] らが追放され、良房は権力を握っていく
866	・ ・	↓ ↓ ↓	[応天門の変]	[藤原良房] の陰謀により? 応天門放火の容疑をかけられ [伴善男] が追放された。 これと前後して良房は [摂政] に任命
887	宇多	[藤原基経]	[阿衡の紛議]	[藤原基経] が [関白] に任命されたが、任命書に「阿衡」とあってヘソを曲げた
10世紀初め	[醍醐]	藤原時平	[延喜の治] 902年	摂政関白は置かれず、醍醐天皇が親政を行った ○最後の六国史 [[日本代実録]] 編纂 ○最後の格式 [[延喜格式]] 編纂 ○最後の班田收授 ○最初の荘園整理令 [延喜の荘園整理令] ○最初の勅撰和歌集 [[古今和歌集]] 編纂 ※901年 [菅原道真] が陰謀により追放
10世紀なかば	[村上]	・ ・	[天曆の治]	摂政関白は置かれず、村上天皇が親政を行った ○最後の本朝十二銭 [乾元大宝] 鑄造
969	・ ・	藤原実頼	[安和の変]	藤原実頼の陰謀により、[源高明] を追放。
10世紀末～	・ ・ ・	藤原道長	藤原北家の「本家」= [摂関家] が政治の実権を握る これ以降、摂関家内部での主導権争い激しくなった ex. 花山院の出家 中宮定子と中宮彰子の「争い」 → 藤原道長が権力を掌握、摂関政治が全盛に	

(2) 延喜の治

9世紀末から10世紀初めにかけて在位した[醍醐天皇]は、摂政や関白を置かず、天皇自らが政治(親政)を行った。醍醐天皇の親政を[延喜の治]と呼ぶ。

[延喜の治]は、政治史上重要な画期の一つと考えられる。この時期には、律令制を維持するための政策が行われる一方、それまでにはなかった新しい政策も実施された。

- ※ 『日本三代実録』の編纂 : 政府は奈良時代に『日本書紀』を編纂して以降、国史の編纂を続けていた。その最後のものである(『日本書紀』から『日本三代実録』まで、6編の国史を合わせて[六国史]と呼ぶ)。
- ※ 『延喜格式』の編纂 : 政府は、9世紀前半に『弘仁格式』、後半に『貞観格式』を編纂して、数多く出されていた格や式をまとめた。その最後のものである(『弘仁格式』から『延喜格式』までを合わせて[三代格式]と呼ぶ)。
- ※ 最後の班田収授実施 (902年) : これより後、班田収授を行った形跡はない
- ※ [延喜の荘園整理令]の公布 (902年) : 9世紀に数多く設けられていた[勅旨田](皇室領、一種の荘園)を、違法であるとして取り締まった。その後の歴史の中で何度も出された、荘園整理令の最初のもの。
- ※ 『古今和歌集』の編纂 : 醍醐天皇が、[紀貫之]らに命じて編纂させた天皇の命令で編纂される、いわゆる勅撰和歌集の最初のものである。
- ※ 901年、左大臣であった[藤原時平]は、ライバルであった[菅原道真]を、大宰権帥へと左遷した(=[昌泰の変])。
- ※ 914年、[三善清行]は醍醐天皇に対して、[意見封事]十二箇条を提出、具体例を挙げながら、律令制の衰退を憂えている。当時の政治・社会の状況を示す重要史料 → 教P.79注1

… とうとう『史料日本史』P.75に原文が載っています

(3) 天暦の治

10世紀なかごろに在位した[村上天皇]は、摂政や関白を置かず、天皇自らが政治を行った。村上天皇の親政を、[天暦の治]と呼ぶ。

- ※ [乾元大宝]の鑄造 : 政府は8世紀初めに[和同開珎]を鑄造して以降、錢貨の鑄造を断続的に行っていた。その最後のものである(和同開珎から乾元大宝まで、律令政府が鑄造した12種類の錢貨を、[本朝十二錢]と呼ぶ)。

(4) 摂関政治 (藤原道長・藤原頼通の栄華 11世紀初め～なかごろ)

- ※ 「この世をば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることも無しと思へば」 by 藤原道長
… 『[]』(当時の「権力No.2」藤原実資の日記) → 教P.70 史料
- ※ 教科書をよく読んでおいてください

(5) 国際関係の変化

- ※ 9世紀以降、唐が衰退 → 894年 [] の建議により [] の派遣中止
… これ以降、遣唐使派遣は行われず
- ※ 10世紀初め(907年) [唐] が滅亡 → 中国は分裂状態に(五代十国の時代)
→ 10世紀なかごろ [] が建国され、中国を統一
その後も宋の商人が九州の [] に盛んに渡来、貿易を行った
(日本は宋に朝貢しなかった 民間貿易としての日宋貿易が続くことに)
- ※ 10世紀、中国東北部では [] が滅亡 → 遼(契丹)が建国される
- ※ 10世紀、朝鮮半島では [] が滅亡 → [] が朝鮮半島統一
- ※ 10世紀、日本では… 戸籍の作成や班田収授が行われなくなり、律令体制が崩壊

第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治

摂関政治の確立について

(1) 藤原北家の発展

※ 9世紀前半ごろから、[藤原北家] (藤原房前の子孫) 一族が政治権力を伸ばす

※ 藤原北家の、勢力拡大の手法

・ 他^の貴族を、陰謀事件によって追い落とす

ex. 842年 [] 866年 [] 969年 []

・ 天皇と [] 関係を結ぶ 外戚=母方の親戚 娘を天皇の妃にして、生まれた子を天皇に

→ [摂政] [関白] といった高官に就く (安和の変以降は、摂政関白は常置状態に)

※ 摂政・関白が任命されず、天皇親政が行われた時期もあった

ex. [延喜の治] (by [] 天皇) : 10世紀初め

[天曆の治] (by [] 天皇) : 10世紀なかごろ

【藤原北家勢力拡大の過程とおもなできごと (9世紀~11世紀初め)】

西暦	主な天皇	関連する北家の人物	おもなできごと	備考
810	嵯峨	[藤原冬嗣] (子) ↓ [藤原良房]	[平城上皇の變]	嵯峨天皇と平城上皇・藤原薬子が対立、戦争へ [蔵人所] が設置され、藤原冬嗣が初代蔵人頭に任命される 藤原北家勢力拡大のきっかけ
842	・ ・ 清和	↓ ↓ ↓ ↓ (養子)	[承和の變]	天皇位をめぐる貴族間の争いから発生 [藤原良房] の陰謀により、ライバルの [橘逸勢] や [伴健岑] らが追放され、良房は権力を握っていく
866	・ ・	↓ (養子)	[応天門の變]	[藤原良房] の陰謀により? 応天門放火の容疑をかけられ [伴善男] が追放された。 これと前後して良房は [摂政] に任命
887	宇多	[藤原基経] (子)	[阿衡の紛議]	[藤原基経] が [関白] に任命されたが、任命書に「阿衡」とあってヘソを曲げた
10世紀初め	醍醐	藤原時平 (子)	[延喜の治]	摂政関白は置かれず、醍醐天皇が親政を行った ○最後の六国史「[]」編纂 ○最後の格式「[]」編纂 ○最後の班田收授 ○最初の荘園整理令 [延喜の荘園整理令] ○最初の勅撰和歌集「[]」編纂 ※901年 [] が陰謀により追放
10世紀なかば	村上	(子)	[天曆の治]	摂政関白は置かれず、村上天皇が親政を行った ○最後の本朝十二銭 [] 铸造
969	・ ・ 藤原実頼		[安和の變]	藤原実頼の陰謀により、[源高明] を追放。
10世紀末~	・ ・ 藤原道長		藤原北家の「本家」= [摂関家] が政治の実権を握る これ以降、摂関家内部での主導権争い激しくなった ex. 花山院の出家 中宮定子と中宮彰子の「争い」 古文でならひせんか? →藤原道長が権力を掌握、摂関政治が全盛に	

(2) 延喜の治

9世紀末から10世紀初めにかけて在位した[]は、摂政や関白を置かず、天皇自らが政治(親政)を行った。醍醐天皇の親政を[]と呼ぶ。

[延喜の治] は、政治上重要な画期の一つと考えられる。この時期には、律令制を維持するための政策が行われる一方、それまでにはなかった新しい政策も実施された。

- ※ 『[]』の編纂 : 政府は奈良時代に『日本書紀』を編纂して以降、国史の編纂を続けていた。その最後のものである(『日本書紀』から『日本三代実録』まで、6編の国史を合わせて[六国史]と呼ぶ)。
- ※ 『[]』の編纂 : 政府は、9世紀前半に『[弘仁格式]』、後半に『[貞観格式]』を編纂して、数多く出されていた格や式をまとめた。その最後のものである(『弘仁格式』から『延喜格式』までを合わせて[三代格式]と呼ぶ)。
- ※ 最後の班田収授実施 (902年) : これより後、班田収授を行った形跡はない
- ※ [延喜の] の公布 (902年) : 9世紀に数多く設けられていた[勅旨田] (皇室領、一種の荘園)を、違法であるとして取り締まった。その後の歴史の中で何度も出された、荘園整理令の最初のもの。
- ※ 『[]』の編纂 : 醍醐天皇が、[]らに命じて編纂させた天皇の命令で編纂される、いわゆる勅撰和歌集の最初のものである。
- ※ 901年、左大臣であった[藤原時平]は、ライバルであった[]を、大宰権帥へと左遷した(=[昌泰の変])。
- ※ 914年、[三善清行]は醍醐天皇に対して、[意見封事]十二箇条を提出
具体例を挙げながら、律令制の衰退を憂えている。当時の政治・社会の状況を示す重要史料 →教P.79注1

(3) 天暦の治

10世紀なかごろに在位した[]は、摂政や関白を置かず、天皇自らが政治を行った。村上天皇の親政を、[]と呼ぶ。

- ※ []の鑄造 : 政府は8世紀初めに[和同開珎]を鑄造して以降、錢貨の鑄造を断続的に行っていた。その最後のものである(和同開珎から乾元大宝まで、律令政府が鑄造した12種類の錢貨を、[本朝十二錢]と呼ぶ)。

(4) 摂関政治 (藤原道長・藤原頼通の栄華 11世紀初め～なかごろ)

※ 「この世をば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることも無しと思へば」 by 藤原道長

…『[小石記]』(当時の「権力No.2」藤原実資の日記) →教P.70史料

※ 教科書をよく読んでおいてください

…頻出史料。ミチエーションを依-ジ-してほしい
どうほう史料日本史P.81に原文と記が載っています

(5) 国際関係の変化

- ※ 9世紀以降、唐が衰退 → 894年 []の建議により []の派遣中止
…これ以降、遣唐使派遣は行われず
- ※ 10世紀初め(907年) [唐] が滅亡 → 中国は分裂状態に(五代十国の時代)
→ 10世紀なかごろ [] が建国され、中国を統一
その後も宋の商人が九州の [] に盛んに渡来、貿易を行った
(日本は宋に朝貢しなかった 民間貿易としての日宋貿易が続くことに)
- ※ 10世紀、中国東北部では [] が滅亡 → 遼(契丹)が建国される
- ※ 10世紀、朝鮮半島では [] が滅亡 → [] が朝鮮半島統一
- ※ 10世紀、日本では… 戸籍の作成や班田収授が行われなくなり、律令体制が崩壊

(2) 延喜の治

9世紀末から10世紀初めにかけて在位した[]は、摂政や関白を置かず、天皇自らが政治(親政)を行った。醍醐天皇の親政を[]と呼ぶ。

[延喜の治]は、政治史上重要な画期の一つと考えられる。この時期には、律令制を維持するための政策が行われる一方、それまでにはなかった新しい政策も実施された。

- ※ 『[]』の編纂 : 政府は奈良時代に『日本書紀』を編纂して以降、国史の編纂を続けていた。その最後のものである(『日本書紀』から『日本三代実録』まで、6編の国史を合わせて[六国史]と呼ぶ)。
- ※ 『[]』の編纂 : 政府は、9世紀前半に『弘仁格式』、後半に『貞観格式』を編纂して、数多く出されていた格や式をまとめた。その最後のものである(『弘仁格式』から『延喜格式』までを合わせて[三代格式]と呼ぶ)。
- ※ 最後の班田収授実施 (902年) : これより後、班田収授を行った形跡はない
- ※ [延喜の]の公布 (902年) : 9世紀に数多く設けられていた[勅旨田] (皇室領、一種の荘園)を、違法であるとして取り締まった。その後の歴史の中で何度も出された、荘園整理令の最初のもの。
- ※ 『[]』の編纂 : 醍醐天皇が、[]らに命じて編纂させた天皇の命令で編纂される、いわゆる勅撰和歌集の最初のものである。
- ※ 901年、左大臣であった[藤原時平]は、ライバルであった[]を、大宰権帥へと左遷した(=[昌泰の変])。
- ※ 914年、[三善清行]は醍醐天皇に対して、[意見封事]十二箇条を提出
具体例を挙げながら、律令制の衰退を憂えている。当時の政治・社会の状況を示す重要史料 →教P.79注1

(3) 天暦の治

10世紀なかごろに在位した[]は、摂政や関白を置かず、天皇自らが政治を行った。村上天皇の親政を、[]と呼ぶ。

- ※ []の鑄造 : 政府は8世紀初めに[和同開珎]を鑄造して以降、錢貨の鑄造を断続的に行っていた。その最後のものである(和同開珎から乾元大宝まで、律令政府が鑄造した12種類の錢貨を、[本朝十二錢]と呼ぶ)。

(4) 摂関政治 (藤原道長・藤原頼通の栄華 11世紀初め～なかごろ)

- ※ 「この世をば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることも無しと思へば」 by 藤原道長
…『[]』(当時の「権力No.2」藤原実資の日記) →教P.70史料
- ※ 教科書をよく読んでおいてください

(5) 国際関係の変化

- ※ 9世紀以降、唐が衰退 → 894年 [菅原道真]の建議により [遣唐使]の派遣中止
…これ以降、遣唐使派遣は行われず
- ※ 10世紀初め(907年) [唐]が滅亡 → 中国は分裂状態に(五代十国の時代)
10世紀、東アジアは激動 → 10世紀なかごろ [宋]が建国され、中国を統一
…唐が滅亡したことが周辺諸国に影響した??
その後も宋の商人が九州の [博多]に盛んに渡来、貿易を行った
(日本は宋に朝貢しなかった 民間貿易としての日宋貿易が続くことに)
- ※ 10世紀、中国東北部では [渤海]が滅亡 → 遼(契丹)が建国される
- ※ 10世紀、朝鮮半島では [新羅]が滅亡 → [高麗]が朝鮮半島統一
- ※ 10世紀、日本では… 戸籍の作成や班田収授が行われなくなり、律令体制が崩壊

第3章 貴族政治と国風文化 2. 国風文化

☆ 国風文化 ……10世紀から11世紀前半ごろまでの文化

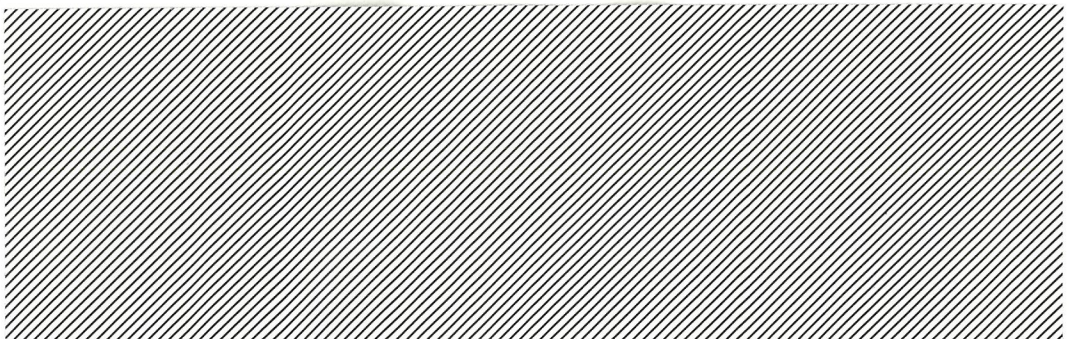
西暦	文化史の区分	時代区分	主要なできごと
900	弘仁貞観文化 国風文化	平安時代	902年 延喜の荘園整理令
950			969年 安和の変
1000			(このころ藤原道長の権力全盛) (このころ藤原頼通の権力全盛)
1050			1053年 平等院鳳凰堂建立
1100	院政期文化 (平安末期文化)		1186年 白河上皇、院政を開始 (このころ院政が全盛)
1150			1156年 保元の乱 1159年 平治の乱 (平氏政権・源平合戦)
1200	鎌倉文化	鎌倉時代	1192年 源頼朝、征夷大將軍になる

(1) 浄土教の発展

- ※ 10世紀以降、仏教の一派 [浄土教] ([阿弥陀如来] を信仰) が広まる
- …次の2種類がある… [念仏] を行い、[極楽浄土] へ往生(極楽往生)することを願う
- ① 称名念仏
"南無阿弥陀仏" と唱える念仏
- ② 観想念仏
目を閉じ、阿弥陀仏のお姿を想い描く念仏
- ・ 10世紀なかごろ: [空也] が京都市内の市で布教し、「[市聖]」と呼ばれた
→ 教 P.74 P.119 (「空也上人像」鎌倉時代に活躍した康勝の作) — 口から何か出ておぼろげに…
- ・ 10世紀後半: 比叡山の僧 [源信] が『[往生要集]』を著した
- ※ なぜ浄土教が広まったのか? = [末法] 思想の影響 — 倫理の授業で出てきた?
- 正法 1000年 → 像法 1000年 → 末法の世へ突入
- ・ 西暦 1052年に末法の世に入ると考えられた 「末法では阿弥陀如来の救いに頼るべき」

(2) 建築・仏像彫刻

- ※ 1053年、[藤原頼通] が京都南郊の宇治に [平等院鳳凰堂] を建立 → 新詳 P94
- ※ その本尊として [平等院鳳凰堂阿弥陀如来像] が造立される → 新詳 P95
(by 仏師 [定朝]) … [寄木造] の仏像の典型例
各部品を別々に造り、組み合わせて成形



(3) その他いろいろ

- ・[**来迎図**] : 人の臨終に際して、[阿弥陀如来] が [極楽浄土] から飛来するという。これを**来迎**と呼んでいる。そのありさまを描いた図が、[来迎図] である。 → 新詳 P95 **高山聖衆来迎図**

- ・[**本地垂迹**] : 日本神は、仏が姿を変えて(仮の姿で)出現したものであると考える、仏教上の学説 「[神仏習合]」の一種

ex.

阿弥陀如来	→	八幡神
(本地仏)		(権現)

- ・[**三蹟**] : 国風文化期、和風の書の名手と謳われた3人
小野道風 ・ **藤原佐理** ・ **藤原行成**
cf. **三筆** (弘仁貞観文化期) : 唐風の書の名手3人 = **嵯峨天皇** ・ **空海** ・ **橘逸勢**
まゐり試で問われることはほとんどないと思います (首都圏有名私立を除く)
弘仁・貞観文化 = 頻出事項です

- ・ **衣冠** ・ **束帯** : 束帯は(男子)貴族の正式の服装。衣冠はそれを簡略化したもの
平安時代、貴族は男子のみ。女子は位階を与えられることはない。

cf. 十二単 (女房装束) = 宮廷の女官たちの正式の服装

cf. 直衣 = 男子貴族の平服 cf. 水干 = 庶民の服装

- ・ **漢文学** : 平安時代、政府の文書や公式の歴史書(六国史)は、必ず漢文で書かれた。

(男性) 貴族の間では、教養として漢文学が尊重されていた(紫式部が漢文学に秀でていたのをみて、父親が「男だったら」と嘆いた話は有名)。貴族は日記をつけていたが、彼らの日記は、**公式文書に準ずる性格をもっていたため、必ず漢文で書かれていた**。「この世をば」の歌の記事があることで有名な[**藤原実資**]の日記『[**小右記**]』(→教 P. 70) や、[**藤原道長**]の日記『[**御堂関白記**]』(「御堂」とは道長が京市内の自分の邸宅の隣に建立した寺院[**法成寺**]のこと)も、漢文で書かれている。*(入試のツボ)*

- ・ **かな文学** : これに対して、「(ひら)かな」はまさに「仮名」(仮の文字)であり、平安時代には正式文書に使われることはなかった。女官が書く宮廷文学(紫式部『[**源氏物語**]』清少納言『[**枕草子**]』)は、ひらがなで書かれるのが通例であった。なお『[**土佐日記**]』の作者[**紀貫之**]は男性であるが、女性を書いたことにしている、ひらがなで書かれている。

- ・ **和歌** : (男子) 貴族、女官たちにとって、和歌は必須の教養であり、公式の場で詠まれることも多かった。10世紀初め、醍醐天皇の命により『[**古今和歌集**]』が編纂されたのを始め、鎌倉時代にかけて8つ和歌集が編まれた。天皇の命により編纂される和歌集を**勅撰和歌集**といい、8つを合わせて八代集と呼んでいる。

- ・ **御霊会** (御霊信仰) : 平安時代、政治的敗者として没落した者の霊をなぐさめ、あるいはその祟りによって引き起こされる疫病を防ぐため、その霊を祀り信仰することが行われた。これを御霊会という。

ex. **菅原道真** (=901年昌泰の変において大宰府(大宰権帥)に左遷) → 怨霊化 → 御霊信仰の対象に → 京都の**北野神社** (北野天満宮) に神(天神)として祀られた

- ・ **陰陽道** : 中国から伝来した陰陽五行説に基づき、日本で形成された呪術や祭祀平安時代の陰陽師としては安倍晴明が有名

「ものいみ」 cf. [**物忌**] ・穢れを恐れ、一定期間、屋敷内で謹慎すること
「かたたかえ」 cf. [**方違**] ・外出時、悪神のいる方角を避けて出かけること